

野菜研究所ニュース

18 2017.6

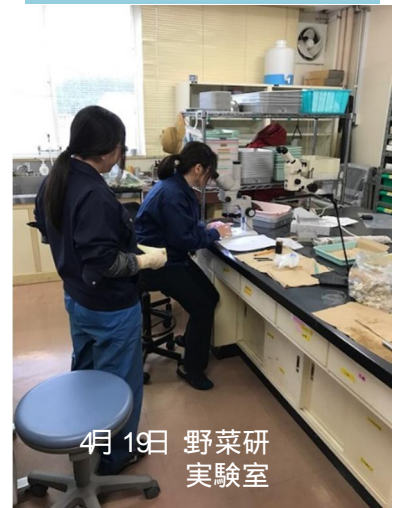
あおもりの未来
技術でサポート

青森県産業技術センター 野菜研究所

< 掲載記事 >

ニンニクリン片分化期調査
タマネギ現地栽培実証
にんにく高品質安定生産技術研修会
自動操舵トラクタ - で溝掘り作業
人の動き

ニンニクリン片 分化はいつか



4月19日 野菜研
実験室

タマネギ現地栽培実証

タマネギは業務加工用の需要が増え、世界で第7位の生産量ですが、国内産だけではまかないきれなくなってきました。スーパーでも生食用に外国産が並ぶのを見かけるほど需要がある野菜です。

作業体系の機械化もすすんでおり、転作作物の一つとして東北地方でも取り組みがみられるようになりました。

野菜研においても、端境期の出荷をねらった青森県向き



5月18日 蓬田
現地ほ場

の栽培技術について試験を続けております。

にんにくの株を分解して、顕微鏡でりん片の様子を観察中です。りん片分化期は平年より5日早い4月17日でした。この頃になると毎日地道に覗いて判断します。

にんにく高品質安定生産技術研修会

6月2日、当研究所において、県関係機関、JA全農あおもり、各農協から計60名の参加を得て、恒例のにんにく高品質安定生産技術研修会が開催されました。平成29年産ニンニクについて、生育状況や今後の管理についての理解を深めていただくための指導者向けの研修会を行いました。

当研究所今主任研究員がニンニク乾燥のポイントについて、新藤研究管理員が、チューリップサビダニ防除について解説し、青山研究員がイモグサレセンチュウ防除について、説明しました。昨年に続き、今年も収穫時期が早まる見込みが示されました。



ニンニク中のイモグサレセンチュウ実物観察



チューリップサビダニの解説

自動操舵トラクターで植溝掘り作業

県重点事業「労働力不足に対応した機械化推進事業」のなかで、今年度野菜研はトレンチャーによる溝掘りと収穫を自動操舵のトラクターで行う作業を担当します。会場となった営農大学校にこの日は関係者ら60名が集まり、実演されました。ここにはゴボウが植えられますが、途中の生育を観察しながら秋には収穫作業の精度を調査する予定です。



作業速度を計測中
6月 石営農大学校

転出者 (平成 29年 3月 31日付)

職 名	氏 名	新 所 属 ・ 職
主幹	工藤 達哉	水産総合研究所総務調整室 主幹
主任研究員	鈴木 聡	青森県営農大学校農産園芸課 主査

転入 昇任者 (平成 29年 4月 1日付)

職 名	氏 名	旧 所 属 ・ 職
研究管理員	東 秀典	農林総合研究所 研究管理員
研究管理員	鹿内 靖浩	青森県農産園芸課 主幹
主事	中川原 廣守	青森県林政課 主事